

「パウロ、アグリッパ王に語る 2」

2016年09月29日

使徒言行録 26 章 9 節～18 節 「実は私自身も、あのナザレの人イエスの名に大いに反対すべきだと考えていました。そして、それをエルサレムで実行に移し、この私が祭司長たちから権限を受けて多くの聖なる者たちを牢に入れ、彼らが死刑になるときは、賛成の意思表示をしたのです。また、至るところの会堂で、しばしば彼らを罰してイエスを冒瀆するように強制し、彼らに対して激しく怒り狂い、外国の町にまでも迫害の手を伸ばしたのです。こうして、私は祭司長たちから権限を委任されて、ダマスコへ向かったのですが、その途中、真昼のことです。王よ、私は天からの光を見たのです。それは太陽より明るく輝いて、私とまた同行していた者との周りを照らしました。私たちが皆地に倒れたとき、『サウル、サウル、なぜ、わたしを迫害するのか。とげの付いた棒をけると、ひどい目に遭う』と、私にヘブライ語で語りかける声を聞きました。私が、『主よ、あなたはどなたですか』と申しますと、主は言われました。『わたしは、あなたが迫害しているイエスである。起き上がれ。自分の足で立て。わたしがあなたに現れたのは、あなたがわたしを見たこと、そして、これからわたしが示そうとすることについて、あなたを奉仕者、また証人にするためである。わたしは、あなたをこの民と異邦人の中から救い出し、彼らのもとに遣わす。それは、彼らの目を開いて、闇から光に、サタンの支配から神に立ち帰らせ、こうして彼らがわたしへの信仰によって、罪の赦しを得、聖なる者とされた人々と共に恵みの分け前にあずかるようになるためである。』」

パウロは総督フェストウスの謁見室で領主アグリッパに弁明する機会を得た。パウロは無罪を訴え、神が先祖に与えた約束の実現に望みを抱いたことが裁判になっている。その望みとは、神が死者を復活させてくださるという望みで、どうしてこのことが信じられないですかと問い、復活した主イエスとの出会いの出来事について語っていく。

パウロは、最初はイエスの名に反対すべきだと考えていた。祭司長たちから権限を受け、主イエスを信じる者たちを牢に入れ、彼らを死刑にすることに賛成の意思表示をしてきた。エルサレムを始め、至る所の会堂で、イエスを冒瀆するように強制し、怒り狂うように迫害し、外国の町にまで追求の手を伸ばした。そして、ダマスコに向かっていた。

その途中、真昼なのに太陽よりも明るく輝く光に照らされ、私たちは皆、地に倒された。その時、「サウル、サウル、なぜ、わたしを迫害するのか。とげの付いた棒をけると、ひどい目に遭う」と、ヘブライ語で語りかける声を聞いた。私が、「主よ、あなたはどなたですか」と問うと、主は、「わたしは、あなたが迫害しているイエスである。起き上がれ。自分の足で立て。わたしがあなたに現れたのは、あなたがわたしを見たこと、そして、これからわたしが示そうとすることについて、あなたを奉仕者、また証人にするためである」と答えられた。十字架で死んだイエスは復活して、私に現れてくださった。更に主は、「あなたをこの民と異邦人の中から救い出し、彼らのもとに遣わす。それは、彼らの目を開いて、闇から光に、サタンの支配から神に立ち帰らせ、こうして彼らがわたしへの信仰によって、罪の赦しを得、聖なる者とされた人々と共に恵みの分け前にあずかるようになるためである」と言われた。復活した主イエスは私を救い出し、ユダヤ人と異邦人に遣わす。それは、彼らの目を開いて、闇のサタンから光の神に立ち帰らせ、罪の赦しを得、共に恵みを分かち合うためである。パウロは復活の証人として、この使命を与えられたと語った。